

標題: 第1部: 私なりのオーディオ試聴曲集

第2部: JPOPの大御所をちょっと聴く(その1 歌詞の世界「中島みゆき」)

1. 私なりのオーディオ試聴曲集

昨年6月に入会し初めての例会発表ですので、普段オーディオの試聴に使っている曲を集めました。なるべく早く評価するために、曲の前半に判断するポイント(聴きどころ)があり、また一方で、試聴に頻繁に使うと聴く回数が多くなるため、自分なりに飽きの少ない曲を選んでいきます。低音重視でなく、以前ヘッドフォン中心だった傾向もでていきます。

尚、本日は、最近チャレンジしている Linux 系の「Ubuntu Studio」という低レイテンシ(低遅延リアルタイム処理)OS を SSD に換装したパソコンに導入して再生します(本日の再生アプリは「DeadBeef」ドライバインタフェースは「Jack」)。同じ DAC(デジタル/アナログコンバーター)を使用しても、普段使用している Windows パソコン(プレーヤーアプリは「Foobar2000」、ドライバインタフェースは「ASIO」)による再生よりも、音の透明度が増す感じがします。

1		ツラウトストラはかく語りき冒頭部 R.シュトラウス op.31(1:54) 「これが話題のクラシックだ！」 2009年 金聖響 新日本フィル	映画「2001 年宇宙の旅」で有名な曲ですが、冒頭の18秒ほど続く単独のパイプオルガン(たぶん)の音が60~70Hzあたりです。曲として短いのも素敵！
2		放課後の音楽室(4:06) ゴンチチ 「Gontiti Best」2002年	2人組のギタリストが、左右で別々に演奏するので、左右のチャンネルチェックが容易です。スタートは右からです。淡々としてゆるりとした音色で癒されます。(Image 1999年にもあり)
3		ピエ・イエズ(3:30) シャルロット・チャーチ 「天使の歌声」1998年	とにかく美しい歌声と左右二人の掛け合いとハーモニーが心地よいはず。左の方が先です。当時若干12歳！(Image 1999年にもあり)
4		Eternal Memories(5:09) Crystal Kay (1999年) image Vocal 2003年	歌声で中央の定位を確認します。低音の出方も確認します。日本のポップス歌手、当時若干13歳！
5		情熱大陸テーマ曲(5:00) 葉加瀬太郎 「Image」1999年	曲が始まる前の1分間程度、臨場感のある雑踏の音をはじめ、ドラムやアコーディオン、人の声等色々な音がします。曲では、激しく弾かれるバイオリンに注目ください。
6		ドヴァルザーク交響曲第9番「新世界より」(ライヴ in プラハ)第四楽章 指揮:小林研一郎(12:55) チェコ・フィル 2008年	各楽器の明瞭度が高く、スピード感があって、かつ力強いです。新世界を疾走する蒸気機関車の力強さや大地の広大さを感じます。後半には、「炎のマエストロ」コバケンの唸り声が聞こえます。(24bit 96kHz)
7		夢やぶれて(ミュージカル《レ・ミゼラブル》より)(3:29)三宅由佳莉 THE BEST ~DEEP BLUE SPIRITS~ (2016年)	海上自衛隊の歌姫(東京音楽隊所属)。いかにもミュージカル的な歌い方で張り上げる声を音割れに注意して再生したい。(ある程度はやむを得ない。) (24bit 96kHz)
8		Merry Christmas Mr.Lawrence (5:51) 押尾コータロー (2008年) 「Feel 5 The Most Relaxing」	とにかくギターの多彩な奏法が楽しめる。ギターの色の変化、ハーモニクス、ボディを叩く音など。
9		カルーソー (5:23) Luciano Pavarotti FAVOURITE SONGS(愛唱歌集) (2013年)	オシャレなアレンジがしてあるので、暑苦しさよりもカッコよさを感じられる音が望ましい。

2. JPOP の大御所をちょっと聴く(その1 歌詞の世界「中島みゆき」)

<JPOP とは>

演歌や民謡などの伝統的な曲目を除く現代日本の歌謡曲の総称。主に若者層に支持されることが多いもの。今も昔も歌詞、メロディー、編曲、リズム、歌唱、ダンス、キャラクタ、ファッション等の総合的なエンターテイメントであるため、その種類、裾野は幅広い。尚、ボーカloid「初音ミク」の登場以前と以後で、特にリズムや音階、歌唱方法等が劇的に変化。

<中島みゆき>

70年代から2000年代まで4つの年代でオリコン1位を獲得している唯一のソロ歌手で、松任谷由実とならぶ日本を代表するシンガーソングライター。1975年第6回世界歌謡祭グランプリ曲「時代」をはじめ、「悪女」「空と君のあいだに」「地上の星」「ヘッドライト:テールライト」「糸」「麦の唄」等、有名曲多数。他歌手にも曲を数多く提供。基本的には「歌詞」が注目されるが、演劇コンサート「夜会」を継続している等、演技派でもある。失恋歌等暗い曲が多いと評されたが、近年は基本的に「人生の応援歌」が多い。

<p>「世情」 1978年 (6:12) 1952年生で学生運動を見てきた中島みゆきが、共感はしながらも同調しきれない心情を難解な歌詞と演出で表現。</p>	<p>「ファイト」 1983年 (7:05) 突き刺さる歌詞と、演技派ならではの歌い方で贈られる、苦悩する人々への人生応援歌。</p>
<p>「世情」 作詞:中島みゆき 作曲:中島みゆき</p> <p>世の中はいつも 変わっているから 頑固者だけが悲しい思いをする。</p> <p>変わらないものを 何かにたとえて その度 崩れちゃ そいつのせいにする</p> <p>※シュプレイヒコールの波、通り過ぎてゆく 変わらない夢を、流れに求めて 時の流れを止めて、変わらない夢を 見たがる者たちと、戦うため※</p> <p>世の中はとても臆病な猫だから 他愛のない嘘をいつもついている。</p> <p>包帯のような嘘を見破ることで 学者は世間を見たような気になる</p> <p>※くりかえし※ 4回</p>	<p>題名:ファイト (1983年) 作詞:中島みゆき 作曲:中島みゆき</p> <p>あたし中卒やからね 仕事をもらわれへんのやと書いた 女の子の手紙の文字は とがりながらふるえている ガキのくせにと頬を打たれ 少年たちの眼が年をとる 悔しさを握りしめすぎた こぶしの中 爪が突き刺さる</p> <p>私 本当は目撃したんです 昨日電車の駅 階段で ころがり落ちた子供と つきとばした女のうす笑い 私 驚いてしまって 助けもせず叫びもしなかった ただ恐くて逃げました 私の敵は 私です ※ファイト! 闘う君の唄を 闘わない奴等が笑うだろう ファイト! 冷たい水の中を ふるえながらのぼってゆけ※</p> <p>暗い水の流れに打たれながら 魚たちのぼってゆく 光ってるのは傷ついてはがれかけた鱗が揺れるから いっそ水の流れに身を任せ 流れ落ちてしまえば楽なのにね やせこけて そんなにやせこけて魚たちのぼってゆく</p> <p>勝つか負けるかそれはわからない それでもとにかく闘いの 出場通知を抱きしめて あいつは海になりました ※くりかえし※</p> <p>薄情もんが田舎の町にあと足で砂ばかけるって言われてさ 出てくならおまえの身内も住めんようにしちゃうって言われてさ うっかり燃やしたことにしてやっぱり燃やせんかったこの切符 あんたに送るけん持とつてよ 滲んだ文字 東京ゆき ※くりかえし※</p> <p>あたし男だったらよかったわ 力づくで男の思うままに ならずすんだかもしれないだけ あたし男に生まれればよかったわ ああ 小魚たちの群れきらきりと 海の中の国境を越えてゆく 諦めという名の鎖を 身をよじてほどいてゆく</p> <p>※くりかえし 2回 ※ ファイト!</p>